

かけぬけ道

かけぬけ道は標高 749 メートルの妙法山を登る急峻な道で、阿弥陀寺に続いています。登る途中のところどころに北側の木々の間から那智大滝が見えるスポットがあります。かけぬけ道沿いには 1 丁（およそ 109 メートルの距離を表す単位）おきに全部で 23 の丁石が置かれています。かけぬけ道を登るのにかかる時間は約 1 時間です。

「かけぬけ」という言葉は run through という意味の動詞「駆け抜ける」からきており、この道は熊野古道の他の道の大部分に比べて短いけれどきつい箇所です。この道は山伏と呼ばれる修験道の行者の使う道として開かれました。後に、山伏は一般参詣者の案内を務め始めました。500 年前に制作された『那智参詣曼荼羅』という絵画には、赤い装束に身を包んだ山伏が、かけぬけ道で白装束の二人組の参詣者を一列で先導している様子が描かれています。阿弥陀寺への参拝は、しばしば「西国三十三所」という観音霊場巡礼の番外として扱われました。

周回ルート

おすすめの周回ルートは、かけぬけ道を通して阿弥陀寺まで行き、西に向かって近代的な舗装道路で戻るコースです。この舗装道路で那智高原公園へ戻る途中、阿弥陀寺の奥の院や富士見台という展望台も通ります。急な坂道を下るのは上るよりも危険なことがあるので、舗装道路はより安全な帰り道でもあります。このルートは徒歩 2 時間強で周れます。